

令和6年度 小平市立小平第二中学校 学校評価報告書

学校教育目標	1 自ら考え正しく判断し積極的に実践する人間 3 社会の一員として協力し向上につとめる人間	2 明るく健康で情操の豊かな人間 4 相手の人格や立場を尊重する人間
---------------	--------------------------------------------------	---------------------------------------

目指す学校像(ビジョン)		
【目指す学校像】 1 上級生が下級生のお手本になる学校、2 面倒見が良く、心の熱い教員のいる学校、3 落ち着いており、生徒・保護者・地域から信頼される学校		
【目指す児童・生徒像】 1 自ら考え、正しく判断し、積極的に実践する人間、2 明るく健康で、情操豊かな人間、3 社会の一員として協力し、向上に努める人間、4 相手の人格や立場を尊重する人間		
【目指す教員像】 面倒見が良く、心の熱い教員のいる学校。教職員一人一人が高い志をもち、組織力を高める教員。		

前年度までの学校経営上の成果と課題		
○不登校生徒数及び出現率を減らすことができた。教員の時間外勤務時間(平均)を前年度比-7%、30時間削減することができた。通信類のデジタル化により221キログラム、金額で32,208円削減することができた。		
○生徒の学力を向上させるために若手教員の授業力を高めるとともに、ユニバーサルデザインとICTを組み合わせた、分かりやすい授業づくりに取り組むことが引き続き課題である。		
○これまで築き上げてきた生徒指導等における知の継承が引き続き課題である。		

	具体的方策	第1回評価		成果・課題・対策	第2回評価		学校関係者評価	成果・課題・次年度以降の対策
		取組指標	成果指標		取組指標	成果指標		
学力向上	授業の「ながれ」や「めあて」を示すなど、共通取組事項に基づいた授業実践を行う。	3	4	「ながれ」や「めあて」等を記載したマグネットシートを利用するよう教員に周知した。全ての教員が共通取組事項に基づいて授業実践できるよう、引き続き働きかけていく。	4	4	・3学年の全国学力・学習状況調査の結果も今年度は向上が見られた。学校として、学力向上に組織的に取り組んでいる成果が見られる。	全国学力・学習状況調査において今年度達成率が向上するなど、これまで取り組んできた成果が現れてきていると考える。次年度も引き続き授業改善に努めるとともに校内研究とタイアップし生徒の非認知能力の向上に向け取り組んでいく。
	全ての教員が年1回以上授業を公開し、研究協議を実施する。	4	4	授業研究を行うごとに教員の意識が向上している様子が研究協議の発言内容からうかがえる。今後も着実に実施していく。	4	4	・保護者評価で挙げられた個々の教員の定期考査の内容や、評定の出し方についての課題を改善してほしい。	授業研究・授業公開週間の取組は、3年間取り組む中で定着してきた。次年度も継続して取り組むとともに、定期考査の難易度を見直し、評価・評定を付けていくプロセスを丁寧に説明し理解を得られるようにしていく。
健全育成(いじめ防止)	生徒会活動や学級での係・委員会、班活動に積極的に取り組ませるために、生徒一人一人の出番をつくる。	4	4	どのクラスにおいても行事や学級活動等で生徒の活躍する場面をつくり取り組ませられている。今後も続けていく。	4	4	・生徒会活動、係・委員会活動は生徒主体でよく取り組まれている。 ・いじめについての保護者からの評価が低い。生徒に「いじめは絶対に許さない」という指導を徹底し、保護者にも周知する必要がある。 ・いじめのアンケートのとり方を一工夫したらどうか。	3年生を中心に「上級生が下級生のお手本になる学校」の姿を体現してくれた。この伝統が引き継がれていくように生徒一人一人の出番を確保し指導を継続していく。
	「ふれあい月間アンケート」を年3回、いじめ対策校内委員会を5月から毎月1回実施する。いじめを発見した際は組織的な対応で早期解決を目指す。	4	4	「ふれあい月間アンケート」や生活ノートを通して生徒の情報をつかみ、いじめを見逃さないようにできている。引き続きアンテナを高くして、いじめが起きない環境づくりに努めていく。	4	3		「ふれあい月間アンケート」や生活ノートを通して生徒の情報をつかみ、いじめを見逃さないようにはできた。今後は、いじめを起こさせない学級づくりについて学年で検討し実践していく。
	WEBQUアンケートを年2回実施し、生徒の学級での生活状況を把握し、その結果に基づき指導・助言を行う。	4	4	WEBQUアンケート結果の読み取り方について夏季休業期間に教員研修を行ない、教員リーダーを育てることができた。リーダーを中心に結果を分析し生徒への声かけや支援につなげられている。第2回目も同様に行っている。	4	4		WEBQUについて、校内研修を通し教員の分析・活用スキルが向上した。学級に長期欠席の生徒が多いとかなか調査を締められない課題が見られた。今後は、生徒の状況に応じた具体的な声掛けを時機を逸することなく実施していく。
キャリア教育	外部人材を招聘した講演会を毎学期実施し、生徒が自身の生き方を考えられる機会を設ける。	4	3	3年生修学旅行に向けて薬師寺僧侶や京都の出汁職人を招くなど、各学年や全校で外部人材を招き講演会や特別授業を実施している。今後も継続していく。	4	3	・外部人材の招聘に関して、学校で公開しているものと、非公開のものがある。今後も学校HPに記事を載せるなど、広く周知してほしい。	今年度は、12の個人・団体の方にお世話になった。生徒自身の生き方に響くよう次年度も継続して実施していく。
	毎学期「キャリア・パスポート」のまともを通して、自己理解を促進させる。	3	4	進路指導部が音頭を取り、どの学年も取り組むことができていく。今後も継続していく。	3	3	・キャリア・パスポートの活用を具体的に示すことが必要である。	年間を通じて着実に取り組むことができた。次年度は、通常の学級において通知表の所見の一部代替とするため、記録としての価値を高めていけるよう指導していく。
	生徒が主体的に関わる生徒会、委員会、実行委員会活動を実践するために、生徒(役員、実行委員等)が進行する場面を設定する。	4	4	生徒会活動やRIKUTAI、合唱コンクールなどの学校行事で生徒が主体的に関わる場面をつくることができていく。引き続き取り組んでいく。	4	4	・子ども達が楽しく生活できる学校になってほしい、不登校予防のためにも。	生徒会活動やRIKUTAI、合唱コンクールなどの学校行事で生徒が主体的に関わる場面をつくることができた。引き続き取り組んでいく。
業務改善・働き方改革	週当たりの在籍時間が60時間を超えることがないよう、超過者に対してはSSSの活用率を高めるよう管理職から指導を行う。	3	3	年度当初、時間外勤務時間が増加したが、その後は、早めに退勤する意識が教員の中にも浸透している。	3	3	・教員は生徒のために精一杯尽力している。サポート人材の更なる活用など、勤務環境の改善をお願いしたい。 ・教員の数が減ると、生徒一人一人のケアが不足する恐れがある。不登校生徒への対応も教員の体制が変わっても工夫してほしい。	令和5年度と比較し、平均の時間外勤務時間を44時間、率で11%減少させることができた。しかし、依然、時間外勤務時間が長引く教員がいるので、仕事分担の見直しを行っている。
	仕事の満足度調査を年に2回実施し、自身のライフワークバランスの具体的な目標を立て取り組ませる。	4	4	1学期に仕事の満足度調査を実施した。また、具体的な取組目標は、自己申告の面談の場で確認を行った。学校として満足度を高められる方策を検討していく。	4	4		調査や面談を通じて教員からの意見や要望をつかむことができた。その中から来年度は、通常の学級において通知表の所見を3学期のみにする、合唱コンクールで歌う曲を1曲にし、指導の負担等を軽減するなどの具体策を講じていく。